

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「家庭教育支援事業」(宮城県石巻市)

取組の概要や経緯

- ・家庭教育支援の充実・・・家庭教育学級(学習会)の実施、家庭教育支援チーム活動の普及と定着

石巻市は東日本大震災で大きな被害を受け、子育て環境にも大きな影響を受けた。親子の居場所作りや心のケア、コミュニティの再構築が急務となったことを背景に、子育てサポーターや子育てサポーターリーダーが中心となって平成23年9月から家庭教育支援活動をはじめ、行政や子育て支援団体等との協力により、継続的に支援を続けている。

内容

家庭教育支援：
家庭教育学級(学習会)の実施
家庭教育支援チームによる事業の展開

- (1) 家庭教育学級(学習会)
市内全・小中学校及び保育所、
幼稚園、こども園等で実施
- (2) 家庭教育支援チームによる活動
子育てサロン、親学び講座支援
家庭教育学級講師、託児の実施

ポイント

- ・家庭教育学級(学習会)の実施
公立の幼稚園・保育所・こども園・小・
中学校だけでなく、私立幼稚園・保育所等
へも家庭教育学級開設について働きかけ実
施につなげている。
- ・家庭教育支援チーム活動
スタッフを身近な存在として感じ、気軽
に育児相談等ができるような機会の設定を大
切にしている。



↑ 家庭教育学級(学習会)の様子

成果

- ・家庭教育学級(学習会)の実施により、家庭の教育力を高めることに寄与し、保護者同士のネットワーク作りが図られた。
- ・子育てサロンの開催により、親子及び親同士の交流を深めることができ、子育て世代の孤立化防止が図られた。
- ・受講生から講師や支援チームのメンバーとなる好循環が定着しつつある。

今後の方向性

- ・家庭教育支援チームメンバーの育成に重点を置きながら、今後も継続して子育て支援活動を展開できるよう、支援チームの資質向上及び確保に努める。
- ・支援される側から支援する側へつなげられるよう、更なるサポート体制の充実を図る。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「塩竈市子育てサポーター養成講座」(宮城県塩竈市)

取組の概要や経緯

学校や地域から家庭教育力の低下を危惧する声があり、地域全体での子育て支援や家庭教育支援の必要性が高まっている。

令和4年度より、子育てや家庭教育の地域の支援者の育成を目的に、子育てサポーター養成講座を実施している。

内容

全3回の講座では、「家庭教育支援の理解」「親子の理解とかかわり方」「総合的な理解」について専門家からの講義に取り組んだ。また、「早寝早起き朝ごはん」の啓発活動として市内の小学校1年生を対象に読み聞かせの活動の実施と新入生保護者説明会の際に保護者を対象に「親のみちしるべ」のワークショップを実施。

ポイント

- ①家庭教育支援チームや子育て支援サークルによるサポート
- ②子育て支援と家庭教育支援におけるフォローアップ
- ③養成講座を受講した方々の活躍する場の設定(小学校における親の道しるべ事業)

成果

○家庭教育支援チームや子育て支援サークルのメンバーにとっての活躍の機会となり、各自の学びにもなった。

○親のみちしるべの実施によって、参加保護者にとって家庭教育の役割について理解してもらうとともに、保護者同士の交流の場が生まれた。



今後の方向性

- 【他の課や関係団体、機関と連携】
- 講座内容の充実
- フォローアップ体制の充実

- 【家庭教育支援チームの育成】
- ・小中学校における実践を通じた実践力の向上

- 【家庭教育支援の充実
- ～宮城県版「親のみちしるべ」の活用】
- ・小学校入学説明会等での実施と家庭教育支援チームの自主事業としての実施。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「子育てほっとサロン」(宮城県気仙沼市)

取組の概要や経緯

家族が安心して子育てに参加できるよう、**妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制づくりを推進**するとともに、**地域の有識者、子育て経験者、子育て支援団体及び親同士の意見交換や情報共有**を行うことで、**育児負担感を感じさせないための支援活動を継続的に実施**する。



内容

保護者が負担感や孤立感を感じることなく、多くのつながりの中で家庭教育が行われるよう「子育てほっとサロン」や「親子体験プログラム」など親子の関わりや成長を支援する体制を構築する。

- ①**有識者による基調講演、メディアとの関わり方、朗読劇、コンサートの実施**
- ②体操等を取り入れた**親子の関わり合い活動の実施**
- ③**家庭教育支援チーム員による意欲的な活動の推進**
- ④ジュニア・リーダー、ちびっこサポーターの協力を得た**幼児対応の実施**



ポイント

- ①あたたかな雰囲気づくりと託児業務の委託による安心・安全な環境づくり
- ②専門的な講師による多彩な講話や親子参加型のプログラムの実施
- ③子育て世代の学び合いの場、親同士が交流し合える場の創出
- ④参加者アンケートの実施と評価・振り返り

成果

- 参加者と講師、参加者同士、家庭教育支援チーム員があたたかな雰囲気の中で活動した。
- 専門的な講師による講話や、家庭では体験できない内容を親子で体験できたり、保護者同士で育児の悩みや意見交換ができたりと、大変有意義な取組となった。
- 全参加者数延べ392人(昨年度より増)であり、アンケートは102組からの回答があった。結果は右記の通りである。

参加してみて	回答数	また参加したい	回答数
とてもよかった	81	はい	99
よかった	18	いいえ	0
ふつう よくなかった	0	未回答	3
未回答	3		

今後の方向性

- 家庭教育支援チーム員による支援の実践機会を継続的に設定することでチーム員の有効的な活用と支援体制の充実を図る。
- 市長部局との連携を更に強化・充実させることで、保護者が安心して子育てできるよう、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制を構築する。
- 子育て世代や民間の子育て支援団体と意見交換や情報共有を図り、連携して子育て支援を行う。
- 家庭を取り巻く環境の変化に対応するため、子育てにおける課題の抽出や保護者のニーズの把握を行っていく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「親子に寄り添い共に学ぶ家庭教育支援」(宮城県白石市)

取組の概要や経緯

平成26年度に結成した家庭教育支援チームの活動を中心に、家庭教育の講座等を行い、親の学びの機会を作ってきた。
また家庭教育支援チーム員の研修も平成26年度より継続して行いスキルアップを目指している。

内容

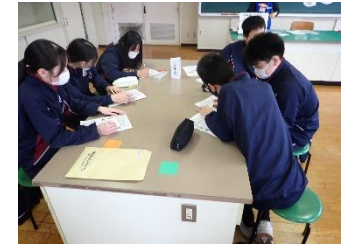
「親の学びのプログラム出前講座」では、しろいし家庭教育支援チーム「ペアレントらん」が講師を務め、小学校で行われる一日入学説明会の機会を活用し、未就学児の保護者向けに、入学における不安等を保護者同士で考える出前講座を実施している。また、将来親になる中学生に対し、妊婦疑似体験や赤ちゃん体験を通して、命の尊さ・親への思いを考える出前講座を実施している。

ポイント

- ・学校行事等必ず保護者が参加する場に出向いて講座を行うこと。
- ・答えを示すのではなく、参加者が自分で考え、気づいてもらえるように心がける。
- ・子連れの参加者が安心してプログラムに集中できるよう、子どもを見守る人員も用意する。

成果

- ・入学説明会時に出前講座を行うことで、普段講座などを受ける機会のない保護者へも家庭教育の大切さを伝えることができた。
- ・中学校の出前講座では、生徒から命の重さや大切さ、自分を支えてくれる人への感謝の言葉を聞くことができ好評であった。



今後の方向性

- ・来年度も引き続き家庭教育支援チームの出前講座を行う。
- ・未実施の学校、保育園・幼稚園等についても働きかけをしていく。
- ・未就学児を対象にした講座でも、親の学びのプログラムや保護者の情報交換の場を盛り込んだプログラムを考えていく。



「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「保護者を支える家庭教育支援活動」(宮城県名取市)

取組の概要や経緯

少子化や核家族化などに伴い、家庭を取り巻く課題が複雑化・深刻化する傾向にある。様々な課題解決に向けて、**親子で参加する交流機会の提供**、**子育てサポーター養成講座の開催**、公民館と連携した**家庭教育講座・保護者の交流**を行い、子育て・家庭教育の包括的な支援を目指している。



内容

- ・名取市子育てサポーター養成講座を開催し、**安心して子供を生き育てることができる地域環境づくりの促進と地域で活躍できる人材の育成**を図る。
- ・親子参加型のイベント「移動交流サロン」、**保護者の学びと交流の場を提供**する家庭教育講座を開催する。



ポイント

- ①子育てサポーター養成講座は全4回で設定。**今日の家庭・親子を取り巻く問題に幅広く触れることができるような講師を依頼・講座内容**にする。
- ②移動交流サロンや家庭教育講座は、公民館や児童センター等の市内施設を活用するとともに、**家庭教育支援チームと連携**して準備や当日の運営を行っている。

今後の方向性

- 子育て・家庭教育支援について、柔軟に包容力を持った活動を続ける。
- 家庭教育支援チームがより自立したチームとなるように、研修会等への参加を促すとともに、定例会においてもスキルアップを図るトレーニングを取り入れる。
- 公民館・児童センター・保健センターと連携し、幅広い世代・地域を対象とした家庭教育講座を実施できるようにする。

成果

- ・「子育てサロン」「子育てサポーター養成講座」の参加者に行ったアンケート調査での満足度は、両講座とも肯定的な意見が100%と好評であった。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「家庭教育支援事業の取組事例」(宮城県角田市)

取組の概要や経緯

- 市内全域の保護者を対象にした事業を家庭教育支援チームと運営していくことにより、参加者同士や地域住民とのつながりづくり、家庭教育支援チーム活動の展開を目指している。
- 関係機関との情報共有の場を設け、より充実した家庭教育支援を行うための仕組みの整理を行う。

内容

- 家庭教育支援事業「子育て遊びのMARCHE」(全6回実施)
乳幼児(0～2歳児)の親子を対象に、運動遊びを中心とした場を設け、子どもの体力向上や親同士のネットワーク・子育ての仲間づくりを支援した。今年度は新たにプチヨガコーナーやママカフェを取り入れ、保護者同士の交流の充実を図った。
- 家庭教育支援事業「ふぁみふぁみ」
「学ぶ力を引き上げ幸せな人生も歩める子になるマジックワード」講演会(中止)
- かくだ家庭教育支援チーム活動
家庭教育支援事業「子育て遊びのMARCHE」等の運営に協力した。
- 家庭教育学級
市内保育施設で実施する家庭教育支援事業に対して、支援を行った。

ポイント

- ①参加しやすい場づくり 申込不要・参加費無料とし、参加の敷居を低くすることで、講座等参加へのきっかけづくりや親子の愛着形成、保護者同士が交流する場を創出している。
- ②地域住民の協力による交流の継続 地域住民の協力と参加者の交流に重点を置き、交流が継続するよう努めている。
- ③新たな参加者の掘り起こし 全戸配布チラシや市HP等で広く周知を行い、これまで事業に参加したことがない方の参加を促している。

成果

- 「子育て遊びのMARCHE」では、子どもの発達に応じた運動遊びや育児相談を実施した。今年度新たに取入れたプチヨガコーナーやママカフェにより、保護者同士がリラックスして交流できる場が広がった。
- 家庭教育支援チーム員が、子育て時の悩みや大変さについて実体験や研修で学んだ内容をもとに講話や相談を行い、参加者の気持ちに寄り添う支援を行った。



家庭教育支援チーム員の活動



子育て遊びのMARCHE

今後の方向性

- 家庭教育支援事業の周知
- 親子の愛着形成、保護者同士の交流の場の創出
- 子育てについて学ぶ機会の充実を図る
- 家庭教育支援関係者との連携

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「学校・家庭・地域の連携による教育力向上」(宮城県多賀城市)

取組の概要や経緯

【家庭教育支援活動】

学校・家庭・地域による相互の連携が求められる中、その一端を担う、家庭での教育の重要性が高まっている。そのため、子育て、食育等に関する家庭教育講座を実施したり、本市家庭教育支援チーム員による相談活動等を行ったりすることで、家庭での教育力(親教育力)向上を図る。

内容

【家庭教育支援活動】

- ・親子参加型の家庭教育支援講座を実施
- ・小中学校で子育て等に関する講座を実施
- ・本市家庭教育支援チーム員による親の学び講座、相談活動 等

ポイント

- ・親子参加型の講座を行うことで、親が子どもの興味関心を知るきっかけづくりの場をつくる。
- ・各学校の年間行事の中で、子育て講座を柔軟に計画しやすいように環境を整備する。
- ・本市家庭教育支援チーム員が市内の教職員や保護者から相談されやすい関係づくりを行う。

成果

- ・親子参加型「校庭キャンプ」を実施し、楽しく活動しながら家庭教育の向上を図ることができた。
- ・今年度、市内小中学校6校で、家庭教育講座を実施することができた。
- ・家庭教育支援チーム員がPTAのまつりでカフェを運営し教職員と保護者が交流を促進し、合わせて親の学びプログラム「親のみちしるべ」を紹介することができた。
- ・本市家庭教育支援チーム員が、自ら学校活動の支援に取り組み、教職員とのつながりを築くことができた。

今後の方向性

- ・親子体験型の活動を通して、楽しく活動しながら家庭教育支援の向上を図っていく。
- ・市内小中学校10校全てで、家庭教育講座の実施に向けて、学校との調整を図っていく。
- ・家庭教育支援チームと学校・家庭とが連携し、相談体制と取り組みを周知していく。



保護者向けの講座



親子参加型の講座



教職員と保護者との交流

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「地域ぐるみの教育支援」(宮城県登米市)

取組の概要や経緯

子育て中の親に親としての「学び」や「気付き」の機会を提供するため、平成30年度に家庭教育支援チーム「登き米き」を設立し、現在、子育てサークルや読み聞かせボランティアで活動している14名で活動している。



内容

- ・ 定例会を開催し、講演の模擬練習やアイスブレイクの資料作成などを行い、チーム員のスキルアップを図るほか、各自参加した研修の情報共有を行う。
- ・ 市内で開催される東部教育事務所管内学ぶ土台づくり親の学び研修会でファシリテーター及びサポートを行う。
- ・ 公民館やふれあいセンターで子育て中の保護者が対象となるイベントの際に一時的に子どもの預かりを行う。



ポイント

- ・ 定例会で各自参加した研修などの情報共有を行うことで、今後の活動に活かしている。
- ・ 一時的に託児を行い、保護者が自身の学びに集中できるよう支援している。

成果

- ・ 東部教育事務所管内学ぶ土台づくり親の学び研修会でのファシリテーターやサポート、読み聞かせを務め、個々のスキルアップの機会となった。
- ・ 登米市家庭教育支援チーム研修会に参加し、支援者の在り方や寄り添う支援について、理解を深めた。

今後の方向性

- ・ チーム員の高齢化や活動しているメンバーに偏りがあることから、新規登録者の確保に努める。
- ・ チーム員一人一人の実績(学ぶ土台研修会等のファシリテーター及びサポートの経験)が不足しており、積極的な参加を呼びかける必要がある。
- ・ 登き米きの活動する場を増やせるよう、行政担当者会議等で情報共有を行う。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「できることを、できるときに、できるところから、みんなで育もう栗原っ子」(宮城県栗原市)

取組の概要や経緯

本市においては、子育てや子どもとの関わり方への不安をもつ保護者が少なくなく、悩みを抱えていても、身近に子育てや家庭教育に関する相談をする場も限られている。

こうした状況を踏まえ、栗原市家庭教育支援チームが中心となり、子育てについての学習機会や保護者同士の情報交換、親子の交流や触れ合う場を設けるための学習会等を開催し、家庭の教育力を高めるように努力している。



「マリン保育園」での実践

内容

- 保護者を対象とした親の学びの機会となる講習会や情報交換会、親子触れ合い活動等の家庭教育学級の開催を推進する。
- 保・幼・小・中学校、及び義務教育学校において開催される家庭教育学級、一日入学等学校からの要請に応じて講師謝礼を助成する。



一日入学での一コマ

「親業講座」栗駒南小学校

ポイント

- 宮城県が進める「学ぶ土台づくり」の一環として、栗原市家庭教育支援チーム【KURIKA: クリカ】を中心に、県教委で作成した「親のみちしるべ」を活用した「親の学び研修会」を実施した。
- 各施設からの要請で、子供の躰けや子育てについて、考える機会を提供する家庭教育学級を行った。



「親の学び研修会」栗駒幼稚園

今後の方向性

- 宮城県が進める「学ぶ土台づくり」の「親のみちしるべ」を活用した「親の学び研修会」の実践をもとに、保護者への学びの場の提供をさらに進化・工夫していく。
- 地域人材の発掘に取り組み、高齢化が進む支援チーム員の増員を図っていく。

成果

栗原市家庭教育支援チームが中心となり、家庭教育学級等への支援に積極的に関わることで、不安や悩みを抱える親に対して寄り添う活動ができたり、子供の健全な育成に寄与したりすることができた。また、各学校等と連携し講師謝礼事業に取り組むことで、親子がふれあう場作りを促進した。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「ひがまつ家庭教育支援チーム“まあぶる”の活動」(宮城県東松島市)

取組の概要や経緯

「子育て中の親の力になりたい」という思いから、令和7年4月1日に設立した、ひがまつ家庭教育支援チーム“まあぶる”による家庭学習講座を行ってきた。主に、未就学児をもつ親向けの家庭教育学級「すこやか学級」の中で、ワークショップ形式の講座を行ってきた。

内容

<すこやか学級第1回学習会>

初めて顔を合わせる保護者がほとんどのため、お互いを知り合うことを目的に、皆が無理なく楽しめる内容にした。

<すこやか学級第4回学習会>

「今聞いてほしいこと話したい事」をテーマに開催。ポジティブなこともネガティブなことも自由に出し合える会にした。

<すこやか学級第7回学習会>

すごろくを使って、食育に関するワークショップを開催。出たマスのテーマに沿って、話題を展開した。

<地域の子育て交流会>自治会からの要請により、地域の保護者の交流を目的としたワークショップを行った。



ポイント

- ① 学習会の内容を、参加者同士の交流の要素を多く取り入れるものにした。
- ② 事前事後にアンケートをとるなどして、ニーズに合わせた内容で行った。
- ③ チーム員自身も楽しめるよう、チーム員が得意とすることや好きなことを活かす内容をアイスブレイク等で行った(楽器、声楽、手遊び等)。

成果

<参加者の悩みの軽減 知識の共有>

ワークショップを通して気持ちが軽くなったり、子育ての工夫点を知って今後に活かしたりと、参加者自身の中で学びや気づきがあった。

<チーム員のスキルアップ>

ファシリテートの技術や臨機応変な対応力を磨き、活動の幅を広げられた。

令和7年度東松島市「すこやか学級」アンケートまとめ

出席者数 10名 / 回答者数 10名

1. 今年度「すこやか学級」の学習内容はいかがでしたか	
ア 大変満足	4
イ まあまあ満足	2
ウ やや不満	0
エ 大変不満	0

2. どの学習会が良かったですか(複数回答可)

ア 第1回開講式	3
イ 第3回子育て講座 保護者さんによる講話	3
ウ 第4回家庭教育講座 親子の悩みを聞いて、育児支援	4
エ 第6回家庭教育講座 今聞いてほしいこと話したいこと	4
オ 第8回健康講座①	3
カ 第8回健康講座②	4
キ 第9回健康講座 親子ドクニック	4
ク 第10回健康講座 音楽すこやか	3
ク 第10回サンサンまつりの入場券	4
コ 第10回健康講座②	3
コ 第10回ミニコンサート開催時の交流会	4

3. 結果についてはいかがでしたか

ア 大変満足	4
イ まあまあ満足	4
ウ やや不満	0
エ 大変不満	0
回答無し	0

4. 親の理解や養育ボランティアさんに要望があれば記入ください
 ・同じ「子育て講座」を2回連続して開催してほしいです。
 ・同じ「健康講座」を2回連続して開催してほしいです。
 ・今年度まで十分な内容で、来年も継続してほしいです。
 ・「子育て講座」を2回連続して開催してほしいです。継続してほしいです。
 ・「子育て講座」を2回連続して開催してほしいです。継続してほしいです。
 ・「子育て講座」を2回連続して開催してほしいです。継続してほしいです。

5. 次年度「すこやか学級」を希望しますか

ア 受講したい	5
イ 受講しない	3
ウ 不明	2

※希望者数: 希望者10名、不参加者: 3名、仕事復帰のため: 1名

6. 「すこやか学級」でやったみたい、学びたい等、どんなことでも結構ですご記入をお願いします。
 ・子育て講座で親子の悩みを聞いて、育児支援が良かったです。
 ・料理教室(健康食)、手軽にできるおやつ作りなど、日常生活に活かしたいです。
 ・音楽講座
 ・子育て講座(運動)したいです。運動もしたいです。
 ・お外での活動が子供が喜ぶので、たくさんしてほしいです。
 ・「子育て講座」を2回連続して開催してほしいです。継続してほしいです。
 ・「子育て講座」を2回連続して開催してほしいです。継続してほしいです。
 ・「子育て講座」を2回連続して開催してほしいです。継続してほしいです。

今後の方向性

<すこやか学級での学習会>

今年度に引き続き、ニーズ調査をしながら満足度の高い学習会を展開していく。参加者が学びや気づきを得られるよう、運営の仕方を工夫していく。

<地域での活動展開>

すこやか学級の受講生だけでなく、市民センターでの活動の展開や、依頼があれば講座を行うなど、活動の範囲を広げていく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「家庭教育支援の理解を深める取り組み」(宮城県大崎市)

取組の概要や経緯

地域で安心して子育てができるよう、子育てに関する悩みを共有できる場を提供するとともに、地域全体が家庭教育に関する認識を高め、地域ぐるみで子どもを育てる気運の醸成を図る。



内容

- 親学びサロン・・・小学生以下の保護者を対象とした、家庭教育に関する託児付き講座の実施
- 家庭教育出前講座・・・子育て支援センターや幼稚園、小中学校等へのアウトリーチ型講座の展開
- 家庭教育支援者育成事業・・・家庭教育支援の取り組みについて、広く市民に周知
- 家庭教育支援チーム定例会・・・メンバー間の情報共有と、メンバーの持つ知識や技術の伝承

ポイント

- ①家庭教育支援を届けたい人へ届けに行く、アウトリーチ型の講座を推進
- ②家庭教育支援への理解を深める、市民向けの家庭教育支援者育成事業を展開



成果

- 子育て支援センターの事業や小学校の入学説明会を利用して、アウトリーチ型家庭教育講座を推進し、家庭教育の重要性に対する認識を広めることができた。
- 支援者育成事業により、家庭教育支援に対する理解を深めるとともに、チーム員の増加につながった。

今後の方向性

- 他部局や小中学校への呼びかけを強め、アウトリーチ型の家庭教育講座の機会をさらに広げていく。
- 家庭教育支援チームメンバーが固定化しないよう、支援者発掘と育成に努め、家庭教育支援の裾野を広げる。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「公民館:幼児教育事業」(宮城県富谷市)

取組の概要や経緯

富谷市は「子どもにやさしいまちづくり」を掲げ、富谷市子育て支援センターを中心に、子どもたちのための市政を推進している。教育委員会では、各公民館において「家庭教育支援」として1～3歳児を対象とした幼児学級や親子の歌遊びや手遊び、親子のふれあいをテーマに子育てサロン・お話し会を実施している。

内容

日吉台公民館(うきうき学級)対象:2～3歳児
東向陽台公民館(のびのび学級)対象:1～3歳児
成田公民館(アイアイ学級)対象:1～3歳児

【内容】

公民館を会場に未就学親子を対象とした親子の歌遊びや手遊びなど、発育に合わせた事業を実施している。また、親子のふれあいをテーマとした事業も合わせて実施している。

ポイント

- ①……専門講師を招き、発育に合わせた楽しい時間を過ごすことができる。
- ②……身近な公民館で実施することができ、地域密着の幼児教育ができています。
- ③……親子の触れ合いを重視し実施している。

成果

- ・親子どうしのふれあいを深めることができた。
- ・発育に合わせた遊びを提供できた。
- ・地域で子育てできる環境であることを示すことができた。

今後の方向性

- ・参加者が減ってきているため、さらなる広報などの周知を実施し、家庭教育の場を提供する。
- ・真に家庭教育の場を必要とする方が来やすくなる場を提供する。
- ・幼児教育においてもメニューを変えるなどバラエティーを増やす必要がある。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「子育てサポーターチーム すまいるハート」(宮城県蔵王町)

取組の概要や経緯

蔵王町では、平成27年5月から子育てサポーターチーム「すまいるハート」が活動している。チーム名には「心から笑顔で!」という意味が込められ、サポーターたちは県の養成講座で習得した知識や自身の子育て経験を活かしながら子育て中の親を支えている。

内容

- (1) 託児支援
行政による様々な事業で、依頼があった際に託児支援を行った。
- (2) メッセージカードづくり
すまいるハートの活動周知のために手作りメッセージを制作し、乳幼児健診にて配布した。折り紙を使用したり、シールを貼ったりすまいるハートの思いを込めたカードになっている。
- (3) 派遣依頼への対応
行政等による事業において派遣依頼があった際に、すまいるハートが事業支援を行った。
- (4) 共催事業の実施
町公民館講座「リフレッシュ♪mama café」、まちづくり推進課との「蔵王町男女共同参画基本計画」に基づいた家庭教育支援講座を、すまいるハートが企画・立案した内容で実施した。

ポイント

- ① 2か月に1、2回打ち合わせ会が行われ、イベントの企画や情報交換を行っている。
- ② 活動する際にはすまいるハート全員が同じエプロンをつけている。
- ③ 子育て中の親の手助けをしたいという気持ちで活動している。

成果

- ・子育て中の親を支援する講座の企画やメッセージカードの配布など、すまいるハートの活動を周知することができた。
- ・メンバーが中心となって企画・立案を行い、活動への主体的な参画意識の向上につながった。

今後の方向性

- ・打ち合わせ会や活動への参加者の固定化が課題となっている。メンバーと事務局間の交流を深め、情報交換を図りながら活動の様子を発信し、組織を活性化させる。
- ・すまいるハートとしての目的を再度共有し、今後の活動の方向性をしっかりと話し合う。メンバー会員の減少が深刻であるため、他団体との交流会を企画し活動を担う新たな人材の発掘につなげる。



公民館講座「リフレッシュ♪mama café」



メッセージカードの配布



県主催事業への協力

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「家庭教育の取組事例」(宮城県柴田町)

取組の概要や経緯

核家族化の一層の進行や保護者の就労状況の変化により、子どものしつけや教育についての悩みを気軽に相談する相手や場所がなく、孤立傾向にある保護者は少なくない。家庭の教育力向上のため、環境変化のある入学前に、保護者に対し家庭での子どもとの関わり方を学ぶ機会を提供する。また、親同士の交流と主体的な学びの中から、気づきや不安の解消を図り、健全な子育てを行う一助とする。

内容

- (1) 一日入学や入学説明会の機会を活用した家庭教育に関するチラシの配布
- (2) 男性保護者に向けた「男性向け家庭教育講座」
- (3) 宮城県版親の学びのプログラムを活用した「親のみちしるべ出前講座」

ポイント

- (1) 多くの保護者に学びの機会を提供するため、学校に協力してもらい、一日入学や入学説明会時に配布する。
- (2) 出前講座の運営は家庭教育支援チームとの協働で実施。
- (3) 広く周知するため、町の広報や学校、子育て支援センターでチラシの配布、参加の呼びかけを行ってもらう。

成果

- ・小中学校併せて200名を超える保護者にチラシを配布し、発達段階ごとの子どもの成長の特徴についてや、早寝早起き朝ごはんについて啓発を行うことができた。
- ・親のみちしるべ出前講座の申込みが1件あり、町内の子育てサークルの活動の支援を行うことができた。
- ・来年度以降の出前講座の実施に向けて、家庭教育支援チーム員に対して宮城県版親のみちしるべ第4弾について研修を行った。



啓発チラシ

親のみちしるべ出前講座



男性向け家庭教育講座

今後の方向性

- ・家庭教育支援チームである子育てサポーター“すきっぷ”の人員確保や継続的な研修を行う。
- ・発達段階に応じた情報提供ができるよう努める。
- ・学校や関係課、関係施設へのチラシ配布や町広報紙等の紙媒体の広報と、町HPやLINE等を活用したデジタルでの広報を行い、情報取得に格差が出ないように努める。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「志教育および親子間およびPTA間の親睦を深める」(宮城県丸森町)

取組の概要や経緯

当町では、少子高齢化により世帯の核家族化や共働き世帯が増加しており、子育ての悩みや孤立感を感じる保護者は少なくなく、家族や地域における教育力の低下も懸念されている。そういった子育て家庭を取り巻く環境の変化に対応するため、家庭教育活動の支援を推進する。

内容

家庭の教育力の低下に対応するため、各単位PTAで実施する家庭教育講演会の開催を支援・推進し、保護者の学習活動の充実を図ることにより、家庭教育の向上を図る。

演劇を鑑賞するとともに、演劇を通じた地域との関わりについて話を聞くことで、感動を親子で共有し絆を深めるとともに、夢を持つことの意義、夢の実現に向けて大切なことを考える機会を提供した。

ポイント

- ①……同じ経験をすることでの連帯感の向上
- ②……夢を持つことや実現させるための思いなどを実感させる

成果

学校・家庭・地域が連携して行う学習機会を通して親子の絆を深め、将来の夢について語り合う機会を提供することで、家庭教育の充実を図り、心豊かな子どもの健全な育成に寄与した。



今後の方向性

少子化により子どもの数が減少し、学校再編が行われる等子どもを取り巻く環境が変化しているが、充実した家庭教育支援事業が実施できるよう、今後も家庭・学校・地域が連携を図りながら取り組んでいきたい。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「山元町地域学校協働活動推進事業(家庭教育支援)」(宮城県 山元町)

取組の概要や経緯

「地域と学校が一体となって山元の子供を育てるネットワーク」をテーマとして、山元町地域学校協働本部を設立し、協働教育活動を推進している。

統括コーディネーター1名、地域コーディネーター3名と生涯学習課が協力・連携しながら事業を推進し、子供たちの育成と地域づくりを目指している。

協働教育を推進していく上で、家庭教育はその大きな柱となっており、より子育てしやすい環境を実現しようと取り組んでいる。



家庭教育学級・幼児学級



家庭教育支援講演会

内容

○ 家庭教育支援

- ・家庭教育支援講座、講演会の開催
- ・家庭教育学級・幼児学級の開催
- ・子育て通信の発行、託児事業

⇒

家庭教育の重要性の普及啓発、親の学び支援と子育てを支える環境づくりを進める。

○ 家庭教育支援チームの育成

- ・各種研修会への参加、自主事業の実施
- ・「親のみちしるべ」の積極的な実施

⇒

自主的で活発な活動につなげる自己研鑽の機会を設ける。



自主事業「夏休みわんぱく大作戦」

ポイント

- ① こどもセンター、他課室と連携し情報共有することで事業の推進に役立てる。
- ② 親の学びと子育て支援を一体で進める、地域ぐるみの家庭教育支援体制が構築できている。
- ③ 生涯学習を通じた人材育成に努め、持続可能な活動を展開する。

成果

- ・家庭教育学級・幼児学級の実施によって、就学前の保護者間及び幼児間の交流と学びの場、就学へ向けての不安解消の場となっている。
- ・自主事業を企画・運営するなど、家庭教育支援チームとして意欲的に活動する様子が見られるとともに、学校や他団体と連携しての事業など広がりが生まれている。
- ・事業への参加者が家庭教育支援に関心を持ち、家庭教育支援チームに加わるケースも多い。

今後の方向性

- 自主事業への参加者が減少していることから、内容や時期、周知方法等について検討し、より多くの人に支援を届けられるよう努める。
- 家庭教育支援チームを中心に、人材発掘と育成を進め、家庭教育学級等でのファシリテーターとしての力量の向上を目指す。
- 本当に支援を必要としている人へ届くアウトリーチ型の支援について模索する。
- 少子化や共働きなど、子育てを取り巻く環境が大きく変わりつつあるため、実態やニーズを把握する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「地域学校協働活動推進事業(家庭教育支援活動)」(宮城県七ヶ浜町)

取組の概要や経緯

町内の保育所や幼稚園、小中学校に家庭教育セミナーの実施希望調査を行い、乳幼児及び児童生徒の保護者を対象に「親の学びのプログラム『親のみちしるべ』」を活用しセミナーを実施した。

(セミナー 3回)



内容

①家庭教育セミナー希望のあった保育所において、県が作成のプログラム(親のみちしるべ)を活用し、町家庭教育支援チームによりセミナーを実施した。(テーマ:親子ふれあい絵本をひらいてみませんか)

②・③家庭教育セミナー希望のあった町子育て支援センターにおいて、県が作成のプログラム(親のみちしるべ)を活用し、町家庭教育支援チームによりセミナーを実施した。(テーマ:②子育てがひとりっきりにならないように、③子育てって自分育ち・これからの人生に向けて)



ポイント

- ①町家庭教育支援チームとの連携(参加者や開催時間に合わせて内容をアレンジし、七ヶ浜版として開催)
- ②グループワークや情報交換の時間の設定(事前打合せを行う)
- ③協力頂く保育所や幼稚園、小中学校への周知、実施希望調査

今後の方向性

- ・事業の有用性を改めて周知するとともに、実施回数が増えるよう努める。
- ・活動を継続するため、家庭教育支援チームの増員ができるよう、周知等を積極的に行っていく。

成果

・保育所開催の家庭教育セミナーでは、13組26名の保護者にセミナーに参加いただいた。アンケート結果から「参加して良かった」という声が多くみられた。家庭教育に関する知識が深まるとともに、参加者同士の交流が図られた。

・町支援センター開催の家庭教育セミナーでは、1回目6名、2回目9名の保護者に参加いただいた。日頃の不安などを話し、情報共有できて有意義な時間となっていた。



「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「家庭教育支援事業」(宮城県利府町)

取組の概要や経緯

近年、核家族化等の家族形態の変容や都市化、少子化が進み、家庭や家族を取り巻く社会状況の変化の中で、家庭の教育力の低下が指摘されている。また、地域のつながりの希薄化を背景に、子育て中の保護者が地域の中で孤立してしまうことが増えてきている。このように、子育て家庭や子どもたちを地域全体で見守り支えることの必要性が高まっている中で本町の家庭教育支援事業が開始された。また、平成28年には家庭教育支援チームを立ち上げ、活動を実施している。

内容

- 保護者同士が悩みや不安を共有したりアイデアを得ることで、負担を和らげるとともに、保護者同士のコミュニティづくりを図る。
- 町内で活躍する子育て支援団体の活動の場を創出するとともに、子育てに悩みを抱える保護者の不安解消を図る。
- 家庭教育の学びの場を提供し、家庭教育の基盤を整える。
- 「早寝早起き朝ごはん」等の正しい生活習慣の大切さの啓発を行う。



【支援チームによる
親の学び講座】



【親子参加行事】

ポイント

- ① 保護者同士が思いや考え、情報共有できる場を提供し、宮城県版「親のみちしるべ」を基に、参加者の実情に応じた参加型のワークショップで保護者自ら今後の子育てに生かせることを学び取る。
- ② 専門知識や経験を有する人材を活用することにより、保護者に対して専門的な学びを促す。
- ③ 出前講座や来年度新1年生へのチラシ配布により、子どもたちやその親に対し、正しい生活習慣の大切さを伝える。



【パパの子育て座談会】

成果

- ・ 宮城県版「親のみちしるべ」の内容を踏まえたワークショップの実施により、悩みや不安を持った保護者の課題の解消や子育て方法の学びに繋げることができた。
- ・ 昨今話題になっている「メディア」について、家庭教育支援の観点からワークショップを実施し、最近の子育て世帯の実情をより理解することができた。
- ・ 町内小学校の就学時検診にて「早寝早起き朝ごはん」等の正しい生活習慣の啓発チラシを配布することができた。

今後の方向性

- ・ 受講者同士でのディスカッションや参加体験型の講座等、参加者が主体的、かつ相互に学び合う学習方法の講座を積極的に取り入れる。
- ・ 他課との連携を図り、町内の様々な場面で家庭教育支援チームの活躍の場を増やす。
- ・ 家庭教育チームメンバーを増員・育成する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「町は学校」学校・家庭・地域が連携した教育活動 (宮城県大和町)

取組の概要や経緯

子育てしやすく、安心して子どもを生み育てられる環境を整えるため、子育て支援と親の学びを図ることを目的にたいわ家庭教育サポートチームを設置し、各種事業を行っている。

内容

- ・子育てに関わる方が自由におしゃべりできる「家庭教育サロン」や、友だちと遊ぶ喜びや遊び方の幅を広げる「幼児学級」、自然の中で自由な発想で遊ぶ「遊び場どうじょ!」を実施している。
- ・保育所や児童館が企画する「子育て講座」の開催を支援。
- ・隔月で「子育て通信」を発行し、町内で行われる子育て関連行事の周知を行っている。
- ・広報誌「までえに」を発行し、子どもたちの正しい生活習慣について周知・啓発を図っている。
- ・各活動において協力する「子育てサポーター」を設置。活動のサポートや託児対応を行っている。また、子育てサポーター養成講座やフォローアップ研修会を実施し、資質の向上を図っている。



幼児学級



家庭教育サロン



遊び場どうじょ!

ポイント

- ①子育てサポーターの代表による「執行部会」を開催し、活動の企画や課題解決のための意見交換を密に行い、子育て経験者の生の声を事業内容の検討に活かしている。
- ②前年度の活動で出た課題やニーズを活動内容に反映し、参加者の希望にあったものになるよう調整しながら事業を推進している。
- ③SNSによる発信強化を進めており、より多くの方にわかりやすい情報が届くよう試行錯誤している。

成果

- ・家庭教育サロンでは前年度よりフリートークを充実させ、想定以上の盛り上がりが見られた。自由に話せる場のニーズの高さを実感した。
- ・「遊び場どうじょ!」はSNSによる発信を強化し、充実した交流の場となった。

今後の方向性

- ・児童館や保育所、こども園が独自で行っている活動との差別化を図るとともに、各活動の日程の重複を解消し、保護者の皆さんが事業に参加しやすい環境を作るため、関係機関と連携していく。これらにより、参加者の増につなげていく。
- ・SNSによる情報発信を強化、工夫することで、ニーズのある方に情報が届くよう努める。また、民間組織との連携を図る。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「家庭教育支援事業の再スタートについて」(宮城県大郷町)

取組の概要や経緯

コロナ禍の影響により、本町の家庭教育支援事業は長期にわたり縮小状態にあった。そのため、家庭教育支援コーディネーターを中心とした家庭教育支援チームの体制づくりの取組み事業の再始動を図ることとした。昨今の社会教育の変化を踏まえた本町の家庭教育に関わる現状とニーズや課題を的確に把握するとともに、家庭教育支援コーディネーターと担当教諭との連携を深めていく。

内容

コーディネーター会議では、事業の再始動に必要な現状把握と方向性の整理を目的に、以下の3点について協議を行った。

- ① コロナ禍を経た現在における家庭教育支援のニーズと課題の整理しを行った。特に、学校現場やコーディネーターの活動状況の変化や、事業を取り巻く環境について意見交換を行い情報共有をした。
- ② 「家庭教育支援」と「協働教育支援」の事業内容を、それぞれの目的のもとに整理を行った。本事業として取り組むべき内容を関係者間で明確にした。
- ③ 事業再開の足がかりとして、保護者が集まる小中学校の「1日入学」の場を活用した講座等について具体的な検討を行った。

ポイント

- ・ 長期縮小後の再始動にあたり、現状のニーズを関係者から直接聴取し確認するところから丁寧に着手した。
- ・ 学校現場及びコーディネーター双方の現場の声から、従来型の支援体制では対応しきれない環境変化を把握し、大郷町の地域性を活用する新たなアプローチの必要性を明確にした。

成果

- ① 家庭教育支援チームは、コロナ禍により活動希望が縮小状況になっていたため、本事業を活用し体制の再構築に取り組んだ。
- ② 協働教育推進事業運営協議会コーディネーター会議を開催し、本町の学校や地域における家庭教育支援の現状と課題を整理することができた。
- ③ 本町の課題改善を目指した家庭教育セミナーのプログラムを考案することができた。
- ④ 学校を拠点とした従来型のコーディネーター活動に対するニーズが大きく変化していることが確認された。
- ⑤ インターネット環境の普及により、小学生以上の保護者は子育てに関する悩みを自ら調べ解決する手段を持つようになっており、従来型の講座形式による支援が必ずしも現在のニーズに合致しないことが分かった。

今後の方向性

小学生以上の保護者については、情報収集手段の多様化により自助的な課題解決力が高まっている現状を踏まえ、従来型の支援手法にとられない柔軟なアプローチを模索する。一方で、未就学児を持つ家庭においては、子ども同士の友達形成や人間関係の構築、保護者同士のつながりづくりといった面で支援ニーズがあることが今回の協議で示された。今後はこの層を主な対象と想定し、関係機関との連携協議やニーズの把握を進めながら、大郷町の地域性を生かした事業内容の立案に取り組んでいく予定である。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「色麻町地域学校協働活動推進事業【家庭教育支援事業】」(宮城県色麻町)

取組の概要や経緯

平成17年度から継続している【学校支援】【地域活動支援】【家庭教育支援】の活動を、平成23年度より「協働教育プラットフォーム事業」として実施してきた。

平成29年度より、「地域学校協働活動」として、学校や地域、関係者の連携・協働を強化し、一体的な活動を推進できる体制づくりを目指した。



内容

【学校支援】【地域活動】【家庭教育支援】の各活動分野のコーディネーターと「地域学校協働本部」の企画・調整のもと、各種事業を実施した。

【家庭教育講演会】: 幼稚園児、小学生、中学生の保護者を対象に、家庭教育に関する講演会を実施。

【情報提供】: 広報誌の発行(年3回)、掲示板での情報提供(公民館のホールに設置)



ポイント

- ・各分野のコーディネーターを中心に密に連絡・調整を行い、事業の企画運営を行った。
- ・支援チーム員が密な連絡を行い、共通理解を持った上で、事業を進めた。

成果

- ・家庭教育支援チーム員が密に連絡を取り合いながら事業を進めたので、共通認識を持ち、円滑に活動に取り組むことができた。
- ・公民館に設置の情報掲示板に関して、さらに充実した内容を掲示することにより、子育てや子供の成長に寄与する内容を広く提供することができた。

今後の方向性

- ・引き続き幼稚園児・小中学生保護者の家庭教育における学びの機会の提供・支援を行う。
- ・養成講座等に参加し、家庭教育について学びながら今後の活動に繋げていくことが必要。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「家庭教育支援事業の取組事例(保健講話)」(宮城県加美町)

取組の概要や経緯

加美町では令和3年2月に家庭教育支援チーム「カミュウ」を結成し、学校・家庭・地域において求められる支援活動をスタートさせた。折しも、新型コロナウイルス感染症により活動が制限された中、令和3年度の「生理の貧困対策のための児童生徒への生理用品の配布事業」の実施に伴い、小学校高学年を対象に二次性徴への正しい知識を学ぶため「保健講話」を実施。令和4年度は、生理用品の配布は行わず、「保健講話」として継続。令和5年度以降は町内全ての小学校(全8校)で実施し、中学校においても講師の派遣を行った。

内容

助産師を講師に迎え、各小学校を会場に「保健講話」を開催。男女一緒にお互いの二次性徴について学ぶ。(講話30分、生理用品の説明15分)

生理用品の説明は家庭教育支援チームが行い、たくさんの種類やサイズを準備し、体調の変化などを含めた内容で、男女それぞれに寄り添った支援を行っている。

ポイント

- ①親と子が一緒に学ぶ機会を提供し支援するため、学校側には、出来る限り授業参観や学年PTCでの日程調整を依頼。(保護者アンケートを実施)
- ②講話内容において、どうしても男の子が恥ずかしさを感じるため、会場には必ず男性教諭の参加をお願いしている。
- ③生理用品の説明は、男女別に1グループ5名程度とし種類やサイズを豊富に揃え沢山の品に触れられるよう準備している。



生理用品の説明



講話①



講話②

成果

二次性徴については、親子であってもとてもデリケートな話題で、こういう機会を小学校高学年で提供でき、子どもたちの不安の解消に繋がっていると感じられた。参加された保護者からはどのように学んでいるのか知ることができて良かった、今後も継続してほしいとの要望をいただいた。

今後の方向性

小学校の保健講話については、参観日等を活用した親子の学びの場を提供し支援を継続していく。また、福祉関連との連携を強化し家庭教育に関わらず支援を求められる事業に対し、柔軟な対応ができる体制を整えていく。定例会で積極的にチーム員のスキルアップを図るとともに、チームを継続していけるように人材確保に務める。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「元気わくやふれあい町づくり事業」～家庭教育支援～ (宮城県涌谷町)

取組の概要や経緯

平成22年9月に元気わくやふれあい町づくりサポートセンターを立ち上げ、学校支援本部事業のほか、家庭教育支援事業も同時に開始した。涌谷町家庭教育支援チームはその当時すでに活躍していた2つの子育て支援サークルにご協力いただき活動を開始し、現在は2つの子育てサークルのメンバーのほかに、子育て経験者や子育て支援サポーターなど、興味関心のある地域の方にもご協力いただき活動を継続している。

内容

涌谷町地域学校協働活動推進員を中心に、『学ぶ土台づくり』親の学ぶ研修会において、涌谷町立さくらんぼこども園に出向き、司会やファシリテーターを担いながら、保護者との交流を図った。
また、チーム独自の活動を模索するため「親子スポーツリトミック講座」を通して、直に保護者とふれあう機会を創出し、関係の構築を図った。

ポイント

町内幼稚園等に出向き、保護者の皆さんと一緒に子育ての悩みや日ごろの思いを共有し、さまざまな「気づき」に出会えるよう支援する。
チーム独自の活動を立ち上げるため、保護者との関係を構築する。

成果

令和7年度は、宮城県北部教育事務所主催事業『学ぶ土台づくり』親の学び研修会」が涌谷町立さくらんぼこども園において開催され、涌谷町家庭教育支援チーム員が主となり事業を展開し、涌谷町家庭教育支援チームの存在をアピールした。



今後の方向性

- ・涌谷町家庭教育支援チームとして、幼稚園等に出向き独自の活動を実施する。
- ・チーム員のスキルアップと地域の人材の育成、発掘に努め、家庭教育の推進を図る。
- ・『できる支援をできるときに、できることから』を合言葉に、保護者に寄り添った活動の推進を図る。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「広がりある活動を目指して ～楽しく、コツコツと～」(宮城県美里町)

取組の概要や経緯

子育て中の親に「親としての学び」や「子どもとのコミュニケーションの在り方」に気付く機会を体験を通して提供することを目的に、美里町家庭教育支援チームとして活動を始めた。その後メンバーの高齢化等にもとないチーム員が減少したが、読み聞かせや手あそび、ものづくりなどのスキルアップを定例会として継続しながら新しいメンバーを育て、現在7名で活動している。



子どもたちにできた喜びを
(家庭教育サロン)



子どもの成長のために(家庭教育講座)

内容

- ・定例会の中で、読み聞かせや手あそび、ものづくりなどのスキルアップを行うとともに子育てサポーター養成講座等での研修内容を伝え合い知識を広げている。
- ・北部教育事務所と連携を図り、町内幼稚園での親の学びの研修会スタッフとして、ファシリテーター・グループファシリテーターを行っている。
- ・町内のこどもまつりに実行委員として参加し、親子ものづくり体験ワークショップを行なう。



みんなで楽しくスキルアップ(定例会)



親子で作ってあそぼう
(こどもまつり)

ポイント

- ①町内子育てサークルや各地区PTA、青少年健全育成町民会議などの諸団体とタイアップし、活動の幅を広げるように努めていく。
- ②定例会に参加する楽しさや各自のスキルアップを大切にしながら各自が無理なく活動し、チーム員の増加につなげていく。

成果

- ・個々のチーム員の達成感を重視しながら、個別の相談対応なども含め、日常的にできることを地道に行うことができた。
- ・チームとしての活動の幅を今後さらに広めていくための足がかりとして、関連団体との連携を進めることができていく。

今後の方向性

- ・親子サロン等の継続的な開催を通し、参加者の広がりやつながりを生み出せるようにする。
- ・美里町家庭教育支援チームの特色を大切にし、メンバー一人一人が自己有用感を味わえる活動の場を創り出していく。
- ・宮城県「親のみちしるべ」を活用した「親の学び研修会」に積極的に取り組みながら、保護者への学びの場をさらに広めいく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「女川町協働教育プラットフォーム事業[家庭教育支援]」(宮城県 女川町)

取組の概要や経緯

少子化や核家族化、地縁的なつながりの希薄化により、親が身近な人から育児等について学んだり、子育ての悩みを相談したりする機会が減少していることから、学校や保育所等と連携を図りながら、子育てに関する学びの場の提供や、保護者同士の交流の場を提供し、地域全体で親の「学び」と「育ち」を支える環境づくりを進める。



内容

- 「家庭教育学級」「学年PTA行事」…保育所・学校へのアウトリーチ型講座の実施。
【保育所】子育てのヒント、遊びと発達。【小学校】薬物乱用防止教室等。
- 保護者、親子を対象に、実技を中心とした講座の開催。
【おとうさん・おかあさん学級】主に就学前の子育て世代対象。実技講座中心。
【子育てママ・パパ応援講座】子育て中の保護者対象。実技講座中心。
【親子アドベンチャークラブ】幼児から小学校の親子対象。自然体験教室
- 入学説明会を活用した、読書活動の推進や家庭教育支援事業の広報活動。



ポイント

- ①家庭教育学級において、多くの保護者に学びの機会を提供するため、保育所や学校に協力をもらいを参観日や学年PTA行事として年間行事に位置付けている。
- ②広く周知するために、町の広報やSNSに情報を掲載し、学校や子育て支援センターでチラシの配布を行ってもらっている。



成果

- ・家庭教育学級は、参観日や学年PTA行事として開催していることから、9割くらいの保護者の参加があり、多くの保護者に家庭教育についての学びを届けることができています。
- ・様々な体験活動を提供できた。親子で学んだり、ものづくりを行ったりという活動を通して、親子間や他の家庭との和やかな交流が生まれた。

今後の方向性

- ・引き続き、学校等との連携を密にし、保育所児童・小学生保護者の家庭教育に関する学びの機会を計画的に提供し、家庭での取組につながるように支援する。
- ・学校や関係課、関係施設や団体へのチラシの配布や、町公式SNS等を活用した広報活動を行っていく。